



台湾の高等教育における学習環境・学習支援のデザイン

その他のタイトル	The Design of Learning Environment and Learning Support for Higher Education in Taiwan
著者	千葉 美保子, 川面 きよ, 遠海 友紀, 嶋田 みのり, 岩? 千晶
雑誌名	関西大学高等教育研究
巻	11
ページ	121-129
発行年	2020-03-10
URL	http://hdl.handle.net/10112/00020134

台湾の高等教育における学習環境・学習支援のデザイン The Design of Learning Environment and Learning Support for Higher Education in Taiwan

千葉美保子（甲南大学共通教育センター）・川面きよ（帝京大学高等教育開発センター）・
遠海友紀（東北学院大学ラーニング・コモンズ）・嶋田みのり（東北学院大学ラーニング・
コモンズ）・岩崎千晶（関西大学教育推進部）

キーワード 台湾の高等教育、学習環境、学習支援、ラーニングコモンズ、ライティングセンター
Higher Education in Taiwan, Learning Environment, Learning Support, Learning
Commons, Writing Center

1. はじめに

教育から学習へ、教員中心から学習者中心の教育へというパラダイム転換は欧米を中心に始まり、今や世界的潮流である。我が国においても2000年代後半から学習者中心の教育への転換が叫ばれ、その具体的な手法として、従来の講義中心の教育方法からアクティブラーニングをはじめとした能動的な学びを促す教育方法の導入が推進されてきた。またIT化の進行とともに学生の学習スタイルにも変化が起こっている。これら大学教育を取り巻く変化に対応するために、学習環境デザインや学習支援サービスにおいても、人的サービスを伴うラーニングコモンズなどに代表される新たな取り組みが行われてきている。

そのような中で、日本と同様に欧米の取り組みを参考に教育改革に取り組むアジアの大学における事例を比較検討することは、日本の大学における教育改善の有益な示唆となるだろう。

著者らは以上の問題意識のもと、2017年にアジアにおける教育先進国のひとつ、シンガポールの高高等教育機関の学習環境デザイン・教育プログラムを調査し、日本との比較検討を行った（千葉ほか、2018）。今回は、シンガポールに続き、日本同様に高い大学進学率を誇る台湾の大学を対象に、現地調査を実施した。本稿はこれらの調査結果から台湾における学習環境や学習支援プログラムの実態把握と分析を行うことを目的としている。

2. 台湾の教育制度と高等教育

台湾は、戦後50年代より人材を資源とする人材立国を目指し、制度整備が行われてきた。以前は日本と同じく9年間の義務教育制度を導入していたが、2014年8月から初等教育から高等学校にあたる中等教育（後期）までの12年間を義務教育とする「12年国民基本教育」が施行され、高等教育を含めて6・3・3・4制をとっている。

行政上は日本の文部科学省にあたる台湾教育部（Ministry of Education）が所管し、高等教育については高等教育局にあたる高等教育司が担当している（NIAD-UE 評価事業部国際課、2018）。

以前は台湾教育部に予算編成やカリキュラム編成、学位の授与など大学に関わる多くの権限が集中していた。しかし1987年の「嚴戒令」の解除、1994年の「大学法」改正により、段階的に大学の自治権が保証されるようになった（小川・南部、2008；南部・廖、2012）。これにより、現在の高等教育においては、各機関の独自性が拡大し、多様化が進んでいる。台湾教育部統計處（2018）のデータによると2018年時点の高高等教育機関数は大学127校、学院14校、専科12校、設置形態別では国公立大学、45校、国公立学院・専科3校、私立大学82校、私立学院・専科23校、計153校となっている。大学生数は約124万人であるが、2012年の約136万人をピークに年々減少傾向にある。高級中等学校を経ての大学進学率は82.6%を超え、日本同様にユニバーサル段階を迎えているといえる。

3. 調査報告

以下では、2019年3月に実施した現地調査時の情報をもとに、訪問した5つの大学における学習環境および学習支援プログラムの調査結果について、各大学の特色を交えながら報告する。訪問先の選定にあたっては、Times Higher Education World university Ranking 2018の結果を参考に、台湾地域の1・2位にランクされている国立台湾大学および国立精華大学、また設置形態に配慮し、ランキングされている私立大学の中から台北近郊の3校（淡江大学、東呉大学、輔仁大学）に訪問することとした。以下、国立大学、私立大学の順に報告を行う¹⁾。

3.1. 国立台湾大学

国立台湾大学（National Taiwan University）は、台湾総督府医学校を前身とし、1928年に創立された国立大学である。学生数は31,829名（うち、留学生は11%）、11学院（学部及び研究科）を有し、世界ランキング（THE、2019）では170位、台湾内では1位と、台湾で最も権威ある大学の一つである。

本調査ではアカデミックライティング教育センター（Academic Writing Education Center、以下ライティングセンター）への視察を中心に行った。

3.1.1 ライティングセンター

台湾大学ライティングセンターは、2008年に大学院生の国際学会での発表や論文投稿を支援するために開設された。当初は大学院生を対象とした高度な英語ライティング支援のみを行っていたが、次第に基礎レベルの支援が必要であることが分かり、4～5年後に学部生の支援を開始した。現在、7名の教員と24名のチューターがライティングセンターに所属し、運営している（図1）。

ライティングセンターではアカデミックライティングコースの開講・運営や、対面での個別相談だけでなく、オンラインチュータリング等多岐に渡る支援を展開している。

3.1.2. アカデミックライティングコース

アカデミックライティングコースはすべて単位を得ることができるコースである。各コースは週3時間、現在2,500名を超える学生が学んでいる。毎学期すぐに定員となり、ウェイティング・リストは400名を超える。各クラスに1名ティーチング・アシスタント（以下、TA）がつき、サポートを行っている。

TAは英語クラスの受講生のうち、成績が優秀であり、なおかつ親切に対応することができる学生を選出している。TAは4～5時間の研修を受けており、TA業務についてのディスカッションや、メンタルプログラムについて、またどのようにチュータリングを行うか議論する機会を持っている。

各コースはそれぞれひもづけられており、例えば学部生は「Fundamentals of English Writing」からスタートし、より力をつけたいときは、その上のコースを受講する。多くの学生が国際会議での発表を経験することから、ライティングだけでなく、プレゼンテーションやディスカッショントレーニングのクラスも開講しており、ライティングセンター教員がそれぞれ専門のクラスを担当している。クラスは多岐に渡るが、留学生を対象とした英語クラスは設定していない。ただし、留学生からのニーズから、中国語に特化した「Academic Chinese Writing」を開設している。

各コースでは論文のチェックをTAが行っている。学習者からのニーズにより、各コースのアセスメントとして、ルーブリックを活用している。院生向けのコースでは、各課題をルーブリックでチェックし、それを返却する形でフィードバックを行っている。ルーブリックは、TAのトレーニングにも活用しており、教員がチェックするすべてのアセスメントでルーブリックを活用している。

3.1.3. 個別相談

個別相談は、学部生・院生いずれも対象にしており、各学期60セッションを教員が対応している。個別相談は現地学生による英語ライティング支援が主であり、相談者は教員を選ぶことはでき

ない。相談予約はオンライン上で行うことができ、毎学期すぐに定員になるそうである。各相談時間帯で6人が一斉に支援を受けることができるようになっている。

以上のように、台湾大学ライティングセンターは、大学院生を対象とした英語ライティング支援からスタートしており、全体を通じて非常にレベルの高いサポートを行っている。特に、ライティングコースは正課授業として展開し、受講者数も多く、各コースとも毎学期定員になるなど、学内における英語ライティング支援のニーズの高さが感じられた。他機関との連携として、ボランティアではあるものの、CTDL（教育開発支援センター）教員の研修をライティングセンター教員が行うケースがある。

他方、運営資金の確保が課題点としてあげられており、支援を充実させるとともに、補助金の獲得を目指し内外発信を積極的に実施している。



図1 ライティングセンター

3.2. 国立精華大学

国立精華大学(National Tsing Hua University)は1956年に設立された台湾トップレベルの大学である。THE(2019)では、台湾国内で2位、世界ランキングでは351-400位内に位置し、科学技術、人文、社会科学について学ぶことができる文理総合型の大学であり、ノーベル賞受賞者も輩出している。学生数は約1.5万人である(うち、留学生10%)。

精華大学は2013年にラーニングコモンズを含む図書館を1棟新たに設置した。館内にはPC、

映像機材がふんだんに配置されており、デザイン性の高い什器が整備されている。プレゼンテーションをするエリア(図2)、グループワークエリア(図3)、コンピュータエリア(図4)、大学図書館の歴史について紹介するエリア、雑誌を閲覧できるエリアなど多数のエリアで構成されており、台湾トップクラスのラーニングコモンズであるといえる。



図2 プレゼンテーションエリア



図3 コンピュータエリア



図4 グループワークエリア

セミナールームエリアには少人数で講義ができるような部屋が5室設けられているが、教員が定期的に授業で利用することはできず、学生が利用するための部屋となっている。24時間開放しているエリアもあり、長時間学習者が学習に集中できるような支援が行われている。こうしたセミナールームや施設の利用に関しては予約が必要になることもあるが、学生証をタッチパネルにかざして、容易に予約ができる施設となっている(図5)。

これらの充実した施設は、政府と企業によって作られている。建物は企業による寄付で建てられ、建物内の機材等は国の予算で運営が行われている。



図5 タッチパネルで部屋を予約

学習支援に関しては、図書館に関連するサービスを実施しており、図書館としては組織的にライティングセンターを設置していないこともありライティング支援等の学習支援はラーニングcommons内では実施されていなかった。

ラーニングcommonsの評価方法に関しては、図書館職員が毎月の学部生の利用状況を分析し、学部ごとの利用率をフィードバックするようにしている。またこれらのデータを基に、今後の書籍や映像資料の購入について判断する材料としている。

精華大学においては、学習者の学びを促すための物理的な環境は台湾トップクラスの整備がされていることが示された。その一方で、上述のように、図書館においては日本のラーニングcommonsで実施されているようなライティングや外国語に対する学習支援といった学生へのサポートに関しては限定的である印象を受けた。

3.3. 淡江大学

淡江大学 (Tamkang University) は、1950年に創設された「淡江英語専科学校」が1958年に「文理学院」となり、1980年に「淡江大学」となった。学生数は26,032人(そのうち留学生は8%)、世界大学ランキングでは1001+位、アジアでは351から400位の中に入っている (THE, 2019)。学部は8学部(文学部、理学部、工学部、商学管理科学部、外国語学部、国際研究部、教育学部、グローバル企業発展学部)あり、キャンパスは淡水キャンパス、台北キャンパス、蘭陽キャンパス、サイバーキャンパスがある。

本節では、淡水キャンパスにある覚生記念図書館本館のコモンズとそこで取り組まれている取り組みを紹介する。

3.3.1. 覚生記念図書館本館について

大学図書館のHP(淡江大学図書館、2019)によると、覚生記念図書館には、130万冊の本、210万冊以上の電子書籍、70,000冊以上のジャーナル(電子ジャーナルを含む)、および130,000冊以上の非書籍資料がある。本館は9階建てで、読書のための席が2,820席、検索性や作業用などのパソコンが設置された173席がある。またディスカッションルームやマルチメディアリソースルーム、音楽鑑賞エリア、24時間使える学習室などがある。現在の本館の建物は1996年9月に完成したが、2014年から2017年にかけてリノベーションが行われ、その際にcommonsエリアが作られた。

覚生記念図書館では、通常の図書館サービスに加え、図書館の資源を活用したワークショップを授業と連携して実施したり、出版者を招いたセミナーを年に2回ほど実施したりしている。また、ヨーロッパ情報センターが図書館内にあることから、毎年5月をヨーロッパ週間とし、その間は毎週ヨーロッパに関する講座を開催している。なお、学内には学習支援組織が別にある。現時点での連携はないが、今後連携を検討している。

3.3.2. コモンズエリアについて

コモンズは本館の3階に展開されており、インフォメーションコモンズ、ラーニングコモンズ、リサーチコモンズ、の3つのエリアで構成されている。これらのコモンズのデザインは、リノベーションの際、図書館のスタッフが海外の事例を参考にデザインした。

ラーニングコモンズとリサーチコモンズは、もともと書架だったところを改装し、デザイン性の高いソファやローテーブルなどが配置されている(図6)。



図6 ラーニングコモンズ/リサーチコモンズ

また、ラーニングコモンズには、可動式の机と椅子が設置され、授業などでグループワークに取り組めるエリアも用意されており、図書館の利用者ガイダンスや、授業と連携したワークショップなどが実施されている。リサーチコモンズには個室になったディスカッションルームが4部屋ある。ディスカッションルームには、椅子やテーブルだけでなく、ディスプレイも設置されており、発表練習にも利用することができる。インフォメーションコモンズには、パソコンが設置されており、学生が電子資料や情報にアクセスできる環境になっている(図7)。

コモンズの利用者に対する調査として、セミナーの後などに行われる質問紙調査で、簡単な質問をしている。また、図書館ではパートタイムとボランティアの学生スタッフが活動している。彼らは、図書館のwebページの情報更新や、図書館の

利用に関する資料の作成などを担当している。ボランティアのスタッフは、図書館で借りられる本の冊数が規定より増えたり、本の貸し出し期間が長くなるなどのインセンティブがある。



図7 インフォメーションコモンズ

3.3.3. 授業との連携した取り組みについて

ここでは、商学管理科学部の授業の1つである **Strategy Management** と連携して実施されたワークショップを事例として紹介する。この授業は2018年12月から1月に毎週1回、3週間かけて実施された。この授業では、教員が授業をするが、図書館スタッフが協力する形で行われた。

1週目は「図書館に親しむ」というテーマで、学生は図書館見学をした後、図書館に関するクイズを考える。また、図書館スタッフから図書館の説明も受ける。2週目は「図書館の資金調達戦略」というテーマで、図書館スタッフから図書館の資金利用について説明を受けた後、学生はグループで、少ない資金で多くの書籍を購入する方法を検討し、模造紙などに考えたことをまとめて発表する。3週目は「3人の戦略マスターに会う」というテーマである。教員が示した経営学やビジネス理論に関する3人の著名人について、学生は図書館のリソースを使ってグループで調べ、結果をマインドマップにまとめて発表する。また、教員が3回のワークショップのまとめを行う。

図書館の利用方法を学んだ(1週目)うえで、授業のテーマと図書館を絡めた課題設定をし(2週目)、授業の課題の情報収集を図書館で実際

に行い発表する機会を取り入れる(3週目)など、図書館を学習リソースとしてうまく活用されている。

3.4. 東呉大学

東呉大学(Soochow University)は、1900年に創立され、1951年に台湾で最初に再建された私立大学である。学生数は、15,597人(うち留学生約5%)、世界大学ランキング(QS、2019)ではアジアで291-300位に位置している。文学、理学、法学、商学、外語学部の5学部23学科が設置されており、キャンパスは、メインキャンパスとダウンタウンキャンパスに分かれている。本調査では、メインキャンパスにある中央図書館と隣接のラーニングcommonsを中心に訪問した。

東呉大学中央図書館は、地下1階地上5階の建物で、約92万冊の蔵書がある。中央図書館の特徴としては、日本の漫画が多数寄贈された漫画コーナーや、語学教材や視聴覚資料が豊富にあり、シアタールームや複数人で視聴できるブースが充実していること等が挙げられる。基本的には閲覧室がメインの従来型の図書館であったが、3階に小規模のグループ学習室があり、可動式の机や椅子、ガラス(ホワイト)ボードが設置されていた(図8)。



図8 図書館内のグループ学習スペース

また隣接の第一教学研究棟2階にラーニングcommonsが設置されていた。このラーニングcommonsは、台湾政府の補助金を得て、2009年に改

修・設置されたものである。図書館2階と渡り廊下で接続されており、管轄も図書館が行っている。このラーニングcommonsでは、入り口に近いオープンエリアにグループ席が設置されているが、静寂な空間となっており、話し合いをしたい場合は、奥にあるディスカッションルームを利用することになっている(図9)。



図9 ラーニングcommons

可動式のグループ机や椅子の他にホワイト(ガラス)ボードが設置されているが、電子黒板やPCなどは設置されておらず、学生は自分のPCを持ち込んで作業を行っていた。ピアチュータリング等の学習支援については、教育支援センターが別の場所で開催しており、図書館と連携して取り組んでいる様子はみられなかった。

またこのラーニングcommonsの隣には、教学資源センターがあり、オンライン学習や語学学習コーナー、アクティブラーニング教室等が整備されていた。

3.5. 輔仁大学

輔仁大学(Fu Jen Catholic University)は1927年に設立された私立大学では台湾最難関校の一つである。学生数は、20,450名(うち、留学生9%)、12学部50コース、修士課程で49コース、博士課程12コース、夜間部および法律学のPost Bachelorコースなどを擁する大規模校である。世界ランキングでは、アジア圏で251-300位である(THE、2019)。カトリック系のミッションスクールで語学教育に定評がある。

3.5.1 濟時樓圖書總館(Fahy Memorial Library)について

訪問したキャンパス内には、Fahy Memorial Library、Kungpo Memorial Library、Cardinal Shan Library の3館が存在するが、ラーニングコモンズは、Fahy Memorial Library、Kungpo Memorial Library の2館で展開されている。今回はメイン図書館となる Fahy Memorial Library のみを訪問した。

輔仁大学のメイン図書館となる Fahy Memorial Library (濟時樓圖書總館) は、社会科学系の9階建てのビルの2階~8階を利用し、総面積約3500坪に席数813席、全館Wi-Fiを完備した施設となっている。後述する学習共享空間(ラーニングコモンズ)用と検索用端末としてPC120台を設置、研究個室28部屋、グループ学習ルーム7部屋、多機能グループ学習ルームなどが配置されている。図書館入り口となる2階に貸出・返却、レファレンスサービス等の窓口と「学習共享空間」と呼ばれるラーニングコモンズエリア、ライティングセンターが設置され、3階以上の各閲覧エリアにグループ学習ルームや研究個室を、8階には情報リテラシーおよびe-learning教育用の教室が設置されている。

本ラーニングコモンズの導入にあたって掲げられたラーニングコモンズ設置の目的は以下の6点である。

- ・教員と学生が自由に施設を使用できる
- ・設置されているPCを利用して課題やレポートに取り組める
- ・自由にインターネットサーフィンや情報検索ができる
- ・エリア内で課題に関する複数でのディスカッションが可能
- ・ソーシャルメディアを通して、e-mailの確認や友人とのチャットが可能
- ・図書館の様々な所蔵リソースが活用できる

3.5.2 図書館内のコモンズエリアについて

図書館内のラーニングコモンズとして案内され

たエリアは主に4台のPCが固定机に配置される、もしくは2人で一台のPCを共有して学習する、あるいは単独でのPC利用を目的とした空間で構成されていた。従来の図書館環境におけるPCワークエリアと異なり、PC操作をしながらの会話が許容されている空間として運営されている点から本スペースをラーニングコモンズと位置づけているとのことであった(図10)。



図10 図書館内のラーニングコモンズエリア

多機能学習ルームやグループ学習ルームとされているエリアもあったが、いずれも既存のスペースおよび設備を流用したものとなっており、全体として限られた予算の中で工夫してラーニングコモンズスペースを設置・運用している様子が伺えた。

3.5.3 ライティング支援について

Fahy Memorial Library には2010年に開設されたライティングセンターが併設されており、常時、アドバイザーによる英語(中国語)のライティング支援が行われている(図11)。対面コンサルティングを基本としながら、センター開設当初から複数のコースが提供されてきた。対応するアドバイザー・スタッフは英語教員と英語に堪能な大学院生または学部生となっている。

対面コンサルティング以外にも2019年春の Semester では以下の6つのコースが提供されている。

- ・Face2Face : 英語ライティングに関するコンサ

ルティング

- ・ 実用英語ワークショップコース
- ・ 英語ビデオ・ライブ配信コース
- ・ WE ONLINE: 双方向英会話コース
- ・ English easy test training: 英語テストのための
の自学自習オンラインプラットフォーム
- ・ Self-learning center guides: 英語自習ガイド

ライティングセンターについては、図書館以外に輔仁英語網路學院というバーチャルセンターが別途存在する。図書館のライティングセンターで提供されているビデオ・ライブ配信コースは英文学部と輔仁英語網路學院とコラボレーションして



図 11 ライティングセンターの対面コン
サルティングルーム

開発されたコンテンツになっている。

4. おわりに

以上、台湾の高等教育機関 5 校の現地調査を通じて得た、学習環境デザイン、学習支援制度の知見について、それぞれの機関の特色を踏まえながら論じてきた。

国立大学である国立台湾大学や国立精華大学では学習環境・学習支援ともに助成金や寄付を基盤に新たに施設建設を行うなど充実を図っており、私立大学の淡江大学や輔仁大学では既存の施設の改修や、レイアウト変更によりラーニングコモンズやアクティブラーニングのための学習スペースの整備を行っていた。東呉大学のコモンズは政府からの補助金で設置されたとのことであったが、国立大学の施設・設備の状況と比較すると規模と

しては非常に小さく、設備も劣る印象を受けた。

今回の訪問から得た情報に限定すると、台湾では私立大学よりも国立大学の学習スペースのほう
が充実した施設・設備が導入されているようである。

他方、各大学ともに、ラーニングコモンズを管轄する部門と、学習支援を担う部門の連携があまり行われていない印象を強く受けた。加えて、学習環境の整備や学習支援プログラムを通じた学生の学びへの評価についても訪問時のヒアリングでは具体的な取り組みについて情報を得ることができなかった。

美馬・山内 (2005) は、学習環境の 3 要素として空間・活動・共同体を定義しており、米澤 (2017) は上記の 3 要素をベースに新しい学びの強化策として施設整備、学習支援、コミュニティ支援を提言している。つまり、学習環境を整備することと、学習支援や学びのコミュニティづくりは、学生の学びを促し、深めるために相互に連携する必要があるはずである。台湾における学習環境・学習支援のデザインにおいて、この点がどのように位置づけられているのかについてのさらなる調査の必要性を感じた。

今回は日程の都合上、台北を中心とした限られたエリアの大学、施設の調査に留まった。今後はさらに地域・対象を拡大し、台湾およびアジアを中心とした諸外国の高等教育における学習支援の実態把握と分析に努めていきたい。

註

1 各大学の情報は訪問時に聞き取った情報と、以下の各大学機関ホームページの情報をもとに記述している。

国立台湾大学ライティングセンター
(<https://www.awec.ntu.edu.tw/>) (2019年12月20日)

国立精華大学図書館
(<http://www.lib.nthu.edu.tw/en/index.htm>)
(2019年12月20日)

淡江大学図書館 (<http://www.lib.tku.edu.tw/>)

(2019年12月20日)

東呉大学図書館 (https://www-ch.scu.edu.tw/october/admin_library) (2019年12月20日)

輔仁大学図書館 (<http://web.lib.fju.edu.tw/chi/>) (2019年12月20日)

参考文献

千葉美保子・岩崎千晶・紺田広明 (2018) 「シンガポールの大学教育からみる学生の主体的な学びを促す 教育プログラム・学習環境デザイン」『関西大学高等教育研究』第9号、91-99.

美馬のゆり・山内祐平 (2005) 『「未来の学び」をデザインする一空間・活動・共同体』東京大学出版会.

南部広孝・廖于晴 (2012) 「台湾における高等教育の構成分析」『大学論集』第43号、153-169.

NIAD-UE 評価事業部国際課 (2018) 「台湾高等教育の質保証ブリーフィング資料」
http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/info/taiwan/no17_taiwan_Briefing_rev3_jan2018.pdf
(2020年1月11日)

岡村志嘉子 (2003) 「台湾の『大学教育政策白書』」『国立国会図書館レファレンス』624、60-80(https://dl.ndl.go.jp/view/download/digipo_1000002_po_062403.pdf?contentNo=1)
(2020年1月11日)

小川佳万・南部広孝編 (2008) 『高等教育研究選書 93 台湾の高等教育—現状と改革動向』広島大学高等教育研究開発センター.

QS Asia University Rankings 2020 (2019)
(<https://www.topuniversities.com/university-rankings/asian-university-rankings/2020>) (2019.12.19)

台湾教育部統計處 (2018) 「大專校院學校數及學生數」
(http://stats.moe.gov.tw/files/important/OVERVIEW_U02.pdf) (2020年1月11日)

台湾教育部統計處 (2018) 「高級中等學校畢業生流向概況」

(http://stats.moe.gov.tw/high_graduate/interGraph_grad.html) (2020年1月11日)

Times Higher Education Ranking 2020 (2019)
(https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2020/world-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats) (2019.12.19)

米澤誠 (2017) 「ラーニングコモンズ再考: アクティブラーニング支援から学びのコミュニティ支援へ」『東北大学附属図書館調査研究室年報』4号、131-133.

付記

本論文は、JSPS 科研費 JP19K03040、JP19H01710の助成を受けている。

謝辞

本調査にあたり、視察に対応して下さった各大学関係者、お世話になった現地の方、山本敏幸氏 (関西大学) に感謝する。